

長山列島において観察されたカラシラサギのコロニー

尹祚華・雷富民・丁長青・丁文寧

中国科学院動物研究所

訳 福井和二

摘要 1999年6~8月、遼寧省長海県石城郷形人島(N31° 31' E123° 02')で我が国最大のカラシラサギ約400羽のコロニーを観察した。カラシラサギは4月頃この島に渡来して繁殖をした。巣材は枯れ草を用い、1巣当り4~6卵、淡青色の卵である。14卵の平均サイズは48.5(46.0~50.5)mm×34.0(31.0~36.5)mm、平均重量28.3(27.5~29.0)gであり、抱卵期間は21~23日であった。

カラシラサギ(*Egretta eulophotes*)は羽色全体が白色で冠羽を有し、前頸に矛状の飾り羽、背中に蓑羽がある。きわめて中、小型のサギと混同しやすいが、ただ、繁殖期には目先の露出部が青色になり、他の白サギ類と識別することができる。

カラシラサギは世界的に絶滅の脅威を受けている鳥で、国際的な危急種で中国のレッドデータブックに絶滅危惧種としてランクされている¹⁾。

カラシラサギは我が国の東北地方から東南沿海地域および台湾、西沙群島までの広範な地域に分布している²⁾。しかし、この鳥の我が国域内での繁殖分布および繁殖状況についての資料は甚だ少ない。

筆者は1999年、遼寧省長海県石城郷の無人島である形人島で約400羽からなる我が国最大のカラシラサギの繁殖集団を発見した。これに対する基礎的な観察を行ったので、その結果を以下に報告する。

1. 繁殖環境

形人島(形人坨子あるいは杏仁坨子とも言う)は長山列島中の小さな無人島で、遼寧省長海県石城郷に属し、北緯39° 31' 東経123° 02' に位置する。標高46m、面積0.25km²。植生はまばらで、大きな高木はなく、島の北および東斜面に矮生したニレが自生し、ヨモギなどの草が生え、南斜面にもわずかな灌木と草が生えている。西は岩肌の露出した斜面である。島の上ではカラシラサギのほか、クロツラヘラサギ(*Platalea minor*)、ウミネコ(*Larus crassirostris*)、カモメ(*L. canus*)、セグロカモメ(*L. argentatus*)などが生息している。優勢種はウミネコで800余、カモメ、セグロカモメが約20~40羽が生息し、クロツラヘラサギの3巣が発見され、すでに第1回目の報告がなされている³⁾。

2. 繁殖習性

カラシラサギは4月中旬頃次々と渡来し、個体数は4月下旬に最高に達し、以後その数は安定している。4月下旬から5月上旬にかけて、頻繁に鳴き声を交わし、小群が島の上空を旋回し、いたるところでディスプレイが展開される。5月初め頃から雌雄つがいを形成し、草を口にくわえて運び、巣造りを始める。また一部の鳥は古い巣を補修し、継続して使用するものもいる。巣の構造は非常に粗末で、島の草を巣材に使った浅い盆状の巣を作る。巣内には柔らかい敷物はない。巣の大きさは樹枝の大きさにより異なる(表1)。

5月初旬から8月中旬までが繁殖期で、繁殖期になると多数の雌が産卵を開始する。卵は淡青色で、1巣4~6卵を産む。計測した14卵の平均値は48.5(46.0~50.5)mm×34.0(31.0~

36.5)mm, 28.3(27.5~29.0)gであった。抱卵は雌雄共同, 21~23日で孵化する。この時期の親鳥の巣に対する執着は非常に強く, 雄の鳴き声が次第に少なくなる。カラシラサギの繁殖は通常年1回(人為的障害などがないかぎり)である。

最も早いものでは5月末に孵化した個体があった。育雛は雌雄交代で行い, 育雛の初期はどちらかの親が必ず雛を抱き, 他の一方が給餌にあたり, 1日4~5回給餌を行う。育雛後期は親鳥が吐出した小魚を雛が争って食べるので, 雛同士の争いが起きることとなる。雛が外から脅威を受けると食べた食物を吐き出すことがある。我々が吐き戻した食物を調べたところ, すべて小魚であった。カラシラサギの育雛期は約30日で, 7月頃に巣立ちして巣の近くで行動する。この時の幼鳥は尾羽がやや短い以外は成鳥とほとんど変わらない。幼鳥の飛翔力はまだ弱いので行動範囲は島の周辺に限られ, 干潮時に周辺の岩礁で行動している。

我々の7月15日における調査によるとカラシラサギの幼鳥は北斜面で80羽, 東斜面で23羽, 南斜面で28羽, 全島131羽。さらに7月20日の調査では北斜面90羽, 東斜面50羽, 南斜面26羽で全島166羽であった。以上2回の結果から毎巣の繁殖成功率は1羽に充たないことがわかった。

カラシラサギは毎日夜が明けるとすぐに群れをなしてこの島を飛び立ち, エビの養殖場, 干潟, 埠頭などの海浜地域で採食する。主な食物は小エビ, 小魚類である。午後16:00頃になるとカラシラサギは次々と島へ帰り, 日が暮れて暗くなっても帰ってくるものもある。島は真っ暗になってやっと静かになる。

8月になると2度目の繁殖をしたわずかな幼鳥を除き, カラシラサギの繁殖は完了する。大部分の幼鳥たちはさらに力強い飛翔力を得て活動範囲を広げ, 自力で採食ようになる。9月の中旬過ぎて涼しさがもどると, カラシラサギは次々と南に向かって渡りを始め, 9月末から10月初めにはすべてのカラシラサギはこの島からいなくなる。

表1 カラシラサギの巣の測定 (単位: cm)

No	巣の外径	巣の内径	深さ	高さ
1	40×43	27×27	5	5×10
2	33×37	25×25	3	5×10
3	30×36	26×26	2	6
4	24×37	15×20	1	7
5	38×40	28×29	4	10
6	30×50	21×30	4	11
7	23×35	14×21	2	3
8	37×50	23×26	3	5×12
9	40×56	30×33	5	10
10	40×45	23×29	5	9
11	34×36	20×20	6	8
12	32×37	15×15	1	15
総計	33.42×41.83	22.25×25.08	3.41	7.83×9.25
	(21~40)×(35~56)	(14~30)×(15~33)	(1~6)	(3~15)×(3~15)

3. 保護対策

最近数十年来人口が増加し、海岸沿いで養殖漁業が発展し、また沿岸の資源開発利用が盛んになり、生息地や周辺環境が破壊されている。この外カラシラサギの産卵期に近く漁民たちや観光客が常々島に上がり、卵を捕ったり、抱卵、育雛中の鳥に無法な行為をすることがあり、ただでさえ少ない鳥に危害を加えたことがカラシラサギの繁殖数が激減している原因であると我々は認めている。そのため、

- (1) 野生動物の知識と保護意識を高めるための教育宣伝を強化し、島に上陸して卵を捕ったり、狩猟をすることを禁止し、営巣繁殖を保護してカラシラサギの数を増加するようにする。
- (2) 資源開発と鳥類保護に良好な関係を作り、鳥類にも安静な場所を確保する。
- (3) 国の関係者に形人島および付近の海域を鳥類保護区とすることを切に訴える。